

授業科目名	医療人類学			担当教員	鈴木 清史	
開講年次	3年後期	セメスター	6	時間数(単位数)	15 (1)	
必修選択	選択	授業形態		使用教室		
授業の目的	保健医療にかかわる文化の多様性を学び、文化が人間集団の多様な価値観やライフスタイルにどのように影響しているのかを理解する。					
到達目標	受講した学生諸君は以下の目標を達成することが期待されている。①文化概念／②生業と食生活の関連／③生活様式の多様性・人間の行動様式の多様性、を理解することができる。加えて、④保健医療の普遍的側面と個別的側面を理解し、⑤人間の尊厳および権利について語ることができる。					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	文化とは何か／医療とは何か	講義	文化／医療概念の整理（復習）	60分	鈴木	
2	Disease/ illness/ sickness 概念の再確認	講義	概念復習と整理（復習）	60分	鈴木	
3	生業の差異と病気観（1）	講義	生業の多様性を調べる。（予習）	60分	鈴木	
4	生業の差異と病気観（2）	講義	代表的な生業活動と人間の生活についての知識整理（復習）	60分	鈴木	
5	“cure”と“care”の事例研究（1）	講義	文化の差異に基づく事例の復習と整理	60分	鈴木	
6	さまざまな死生観	講義	民族の多様性についてあらかじめ確認する（予習）	60分	鈴木	
7	「適切な看護」「より良い看護」 「理想とする看護」、「看護」と「介護」 との関係について考える。	講義	文化がどのように表出されるのかを以前の以前の講義から確認しておく（復習）	60分	鈴木	
8	文化の多様性と医療 まとめ	講義	これまでの講義で得られた情報をどのように統合することができるのかを考えておく（復習）	60分	鈴木	

先行履修科目					
テキスト	テキストは指定しない。				
参考文献	波平恵美子：医療人類学入門．朝日選書，1994. 波平恵美子 編：系統看護学講座 基礎9 文化人類学．医学書院，2011.				
メッセージ	医療看護に付随する普遍性と個別性について学ぶことにしましょう				
科目の位置づけ	文化人類学は人間の生活そのものを研究対象としているが、この科目はそのなかでも医療看護に特に焦点を当てている。技術と知識としての看護は、人間への思いが底流にあることを確認し、他者とのかかわりを通して自己の客体化とそれからの学びを確認する科目になると考えられる。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
		◎		○	
評価方法	議論参加 (40%)、レポート (60%) を通して総合的に判断する				